

アフリカ・モロッコ



留学体験談

先輩が語る！

所属：人文・文化学群 比較文化学類
留学した時期・学年：3年次1月～4年次5月
留学した大学：アルアハワイン大学
留学先での専攻・所属：
奨学金の有無・奨学金の名前：利用なし

【留学について】

Q1. 留学の目的、動機などを教えてください。

専門がイスラームなので、現地での人々の生活に実際触れてみたかったこと、在学中にアフリカに行きたいと思っていたことなどです。

Q2. 留学先にその大学（国）を選んだ理由を教えてください。

専門がイスラームのため。以前ヨルダンやマレーシア等に行った際、自分には中東北アフリカの風土が合っているように感じられたため、同じイスラーム圏でも東南アジアではなく北アフリカにしました。

【大学について】

Q1. 留学した大学の校風を教えてください。

国立ではありますが、アメリカとサウジアラビアが出資しているらしく、とても綺麗で施設等も充実した、アメリカな雰囲気のある大学です。イスラーム圏ですが、服装や男女交際等の考えがアメリカ寄りの校風で、日本よりもオープンな人も多々見受けられます。

Q2. 留学した大学での学生の様子を教えてください。

施設費等のため、普通に現地の人に通おうとするととても高いようで、裕福な家庭出身の学生も多いです。もちろん奨学金をもらったりアルバイトをしたりして通っている学生もいます。小さな大学ながら様々な学生がいるので、一つのグループにこだわらず自分が居心地良いと感じられる場所を探せばきっと見つかります。

Q3. 留学した大学での留学サポートについて教えてください。もし利用していたら、その様子も教えてください。

留学生センターのような事務所があって、最初の役所関係の手続きや履修の相談はもちろん、なにかあればそこに駆け込むと相談に乗ってくれます。何か不備があればメールやFacebookも駆使してくれるので安心です。

Q4. 留学先で入っていたサークルなどがあれば教えてください。また、どのような活動をしていましたか。

日本サークルによく顔を出していました。数人日本語を話せる学生もいましたが、ほとんどはアニメや漫画が好きで入っている人でした。クッキングセッションの手伝いや、学期中にジャパニーズデーというイベントがあったため、その準備や手伝いをしていました。ジャパニーズデーでは他大学の学生も来て一緒にイベントをしたため、モロッコ全国に友人ができその後家に泊めてもらったりしました。

【学習について】

Q1. 留学先ではどのような授業を取っていましたか。授業数も覚えていたら教えてください。

フランス語、アラビア語、アラブの歴史（Arabic History）、アフリカの文化と歴史（African Culture and History）、社会や政治における女性（Women in Society and Politics）の五つです。一日に2、3コマ授業がありました。

Q2. 留学先で一番印象に残っている授業はどの授業ですか。簡単に内容も紹介してください。

日本との大きな違いを感じたのは①アフリカの文化と歴史、②社会や政治における女性の二つです。

① サハラ以南からの留学生も多いモロッコで奴隷制の歴史を学ぶことは日本でただ知っていただけの事実より真実味がありました。戦後の独裁者のPR動画を観たり、奴隷制を題材にした漫画の購読とそれをもとにグループを作り模擬裁判をしたりと単に言葉に知識を与えるのではなく様々な方法で学生に“考え”させてくれた授業だったと思います。

② 私自身日本にいる時はどこかで「宗教（の授業・学問）は宗教、ジェンダー（授業・学問）はジェンダー」と感じていました。しかしモロッコ等の地域でジェンダー論を展開すると、どうしても宗教というトピックが出てきます。特にモロッコ等宗教色が強い地域では気軽に同性婚や人工授精について触れているものが悩みます。大学でジェンダー論の授業を受けるということはそういった繊細な問題にも踏み込めるきっかけになりえます。特にアメリカ帰りだという担当教授が素晴らしい方で、そういった話題を当然のように取り扱ってくれました。

Q3. 筑波大学での授業の様子と比較して、留学先での授業はどうでしたか。気づいた点があれば何でもよいので教えてください。

自分の意見を言うことが非常に求められます。たとえ講義形式の授業でも絶対に質疑応答の時間は設けられ、その時間になったら授業はディスカッションの場となります。また、学生は教授を含む他人と意見が違うことを恐れません。この部分はこういった理由で納得できない、と発言する姿勢は日本の大学においても見習っていかなければならないと感じました。

Q4. 留学先での学習において、もっとも必要だったと思うアカデミックスキルは何ですか。（ライティング、スピーキング、リスニング、リーディング、リサーチスキル、クリティカルシンキング、コミュニケーション能力など）

個人に関して言えば、スピーキングのスキルです。授業や友人との日常会話で意見を求められた際にうまく言えなくてもどかしい思いをしたことが何度もありました。スピーキングのスキルは一人で上達させるには限界があると思うので良い解決策をこれからも探していきたいものです。

Q5. 上記に回答した内容で、留学に行く前にできるだけ身につけておけば良かったと思うスキルはありますか。

語彙力はなかなか増やせないなので日本にいる間に詰め込んでおけばよかったなと思いました。話すにも書くにも聞くにも自分の中にある語彙でないと理解できないので必要だと思います。

Q6. 留学に構えて、どのような準備学習を日本で行いましたか。また、おすすめの学習法があれば教えてください。

【語学について】

ばたばたと決まってしまうのであまり準備学習はしていませんでした。TOEFLもまともに受けたことがないです。

【語学以外について】

上に同じ

Q7. 留学先での指導員、もしくは授業の担当教員とのコミュニケーションはどうか。なにか気づいた点があれば教えてください。

特定の指導教員がいたわけではないと思うのですが、どの先生も大変良くしてくださいました。少し話せば私の英語力のなさにも皆さん気づかれるので、自分の能力のなさに落ち込みながらも開き直ってできるだけ怖じ気づずにコミュニケーションをしようとしていました。

【ライティングについて】

Q1. 留学前に、どのようなライティングの学習をしましたか。

特にこれと言ってしてはいませんでした。

Q2. 筑波大学でのレポート（日本語、外国語）と比較して、留学先でのレポートはどうでしたか。

英語で書くには指定語数が多くて、日本でそこまで長い英語でのレポートを書いたことがなかったのでどれくらいの内容になるのか、なかなかイメージができませんでした。

Q3. 学先のレポートで困ったことがあった時、どのように解決しましたか。

授業の先生が手厚かったので、第一ドラフトを書いた時点で先生にメールで送ってチェックしてもらおう、という形で完成させました。

Q4. 留学先にライティングセンター（もしくは類似する学習支援機関）はありましたか。
定かではありませんが、なかったのではないかと思います。

【生活について】

Q1. どのような部屋に住んでいましたか。（寮、アパート、ルームシェア、ホームステイ等）

寮の2人部屋でした。大学の敷地内にありました。

Q2. その部屋はどのようにして探しましたか。

留学が決まった時点でアハウィン大学から関連資料がメールで送られてきます。

朝方から夜型か、部屋の片づけはどれだけきっちりするかなどのアンケートも送られてきて、その回答によってルームメイトが決まるようです。

Q3. 部屋を決めるときの注意やアドバイスなどがあればお願いします。

アハウィンに限って言えば事前にアンケートがあるので、その回答の際に、自分はあまり部屋が綺麗な方ではないな…と思っても綺麗好きの項目を選ぶなどちょっと潔癖目に答えた方がいいような気がします。もしルームメイトに不満があれば結構手軽に部屋変更はできます。

Q4. 留学先では、どのようなスーパー、お店を利用していましたか。おすすめやアドバイスがあればお願いします。

町にスーパーはありません。マルシェと呼ばれる商店街みたいなのところがあって、そこに八百屋や肉屋が集まっています。普通キロ単位で値段は書いてありますが個数でも買えます。お気に入りのお店ができれば顔馴染になっておいて店員さんと仲良くなると良いことあたりします。

Q5. お金の管理はどのようにしていましたか。奨学金や親からの仕送りなど、どのように受け取っていましたか。（現地銀行口座の開設、日本の銀行口座から送金、国際銀行の口座開設、クレジットカードでのATM利用など）。

キャッシュパスポートというシステムを利用していました。日本から親がお金をわたしのキャッシュパスポートの口座に振り込むと私はモロッコのATMからモロッコディルハムで引き出せます。他の国に行けば現地の通貨で引き出せるので便利です。

Q6. 留学先でアルバイトはしていますか。もしアルバイトをしていたら、その様子を教えてください。

していませんでした。

Q7. 留学先での人間関係を築くにあたって、大切だと思うことがあれば教えてください。また、日本での人間関係との差異もあればお願いします。

日本で考えると少し言い過ぎかな…？と思うことでもぼんぼん言ってしまうといいと思います。わたしは日本語ほど細かいニュアンスが表現できなくてド直球な言い方になることに最初はとてもためらいを感じていましたが、それは表現や普段の人柄で分かってくれると思います。また、意見をしっかり言うことを求めてくる人は日本に比べて多いのではないかと思います。

Q8. 大学以外でもコミュニティーに参加しましたか。もし参加していればその様子を教えてください。

アハワイン大学でジャパニーズデーをした際に来てくれた他大学の日本サークルの学生と仲良くなり、学期後にその大学で日本フェアのようなイベントややっていた際に少し参加してお手伝いのようなことをしました。主に着物の着付けや書道などを手伝いました。

【治安について】

Q1. 留学した大学、留学先の街の治安はどうでしたか。

ちいさな避暑地で留学生が常に多く町の人にも慣れているのであまり悪くありません、それでも日本のようにはいきません。特に夜は気をつけてください。

Q2.安全に暮らすための注意やアドバイスがあればお願いします。（危険な地域、しないほうがいい行動など）

夜遅くまで出歩けない、オーストラリアはカード社会なのであまり多額の現金を持ち歩かない方がよいと思う（引き落とし時にも注意）。

【経済面について】

Q1. 留学全体でどれくらいかかりましたか。

Q2. 留学先での滞在費はどのようにまかなっていましたか。
(奨学金、仕送り、現地でのアルバイト、留学前のアルバイトで貯金など)

月々の奨学金と親からの仕送り

Q3. 1ヶ月の支出について伺います。

項目	現地通貨	日本円
食費		
家賃・寮費		
光熱費		
交通費 (通学)		
交際費		
旅行費		
その他		
合計		

【留学を目指す人へのメッセージ】

特によく分からなくても飛び込んでみる勇気も必要だと思います。行く前は本当にこの場所に半年かけていいのかなとか不安になりましたが、人生の長さから考えれば学生時代の一年や半年回り道をして大丈夫だと思います。わたしはTOEFLも受けたことがなく1年生の時の英語のクラもC2という留学するにはめちゃくちゃなキャリアだったと思いますが、なんとか単位を取って帰ってくることができました。もちろん楽しいことばかりではありませんが、絶対に得るものはあります。それは語学力や友人など分かりやすく良いものから自分の弱点の発見など面白くないものまで色々ありますが、きっとすべて自分の実になります。

あと、つらいときは積極的に周りに泣きつく勇気を持ちましょう。弱音は吐けるときに吐いてなんぼです。そういう意味でも、日頃から周りにいてくれる友人家恋人その他は大事にしてください。